

ヨーロッパ「気楽」な旅(その三)

水泳王国の 夢よもう一度

古 林 喜 楽
え・中 西 勝

オリンピック開会式の予想外の感激的光景に魅了されてしまって、私の旅の記も脱線して、日本に舞いもどる。

ベルリンでオリンピックが催された一九三六年に、私はドイツへ遊学することになった。しかし三六年とはいつても、年度末予算の残りに便乗する組であったので、折角のオリンピックの見られるチャンスを逸した。それでその時は、せめても腹いせに、ベルリンに着くなり、オリンピック・プールへかけつけて、存分に泳いだものである。何分その当時は、水泳王国日本の名がとどろき、前畑嬢が二百米平泳で、金メダルを獲得した

興奮のまださめやらぬときであったこととて、私が泳ぎだすと、ドイツ人たちが群って見にくる。日本人ここにありとばかりに、得意になって颯爽と泳いだといたいところであるが、いづこも同じの公開プールは、芋の子を洗うがごとき満員、かきわけては泳ぎ、ぶち当ってはまた泳ぐというわけで、まともに泳ぐどころのさわぎではなかった。

このときからちょうど二十八年目、思いがけなくも今度、オリンピックの水泳競技を東京で見ることができた。ベルリンのプールも、当時としてはなかなか立派なご自慢のものであったが、東京代



々木のオリンピック・プールには全くたまげませんでした。ヨーロッパには勿論こんなプールはないし、おそらく世界一のプールなのではなからうか。なにかアンバランスの日本を象徴するかのごとく超弩級の豪華版プールである。それだけに競技における日本選手の健闘にけちをつけるわけではないけれども、菌がゆい限りであった。開会前にはホーム・プールであることではあるし、あわよくば四つぐらい金メダルをせしめるのではなからうかと夢みていたのであるが、そしてそれなればこそ私も切符を強引に手に入れて、東京へ飛んだのであったが、表彰式にはいたたまれなくなつて、こそこそと逃げて帰つたのである。

しかしそれはそれとしても、かつて水泳王国のこのざまは何とということであろうか。私も学生時代には水泳部にいたこともあるし卒業してからも、大学の水泳部長で押し通してきたので、いろいろ考へては考へぬいた。

ここで私の言いたいことは、まづ温水プールを方々につくることである。アメリカの弱冠シヨランダ―は、毎日五時間づつ泳いでいるという。来る日も来る日も毎日毎日、五時間泳げるのである。金メダル獲得の世界レコードをつくるのも無理がない。これに比して、日本では冬は水泳休業である。日本選手が休んでいる間も、シヨランダ―は毎日五時間泳いでいる。これでは到底勝負にはならないのである。

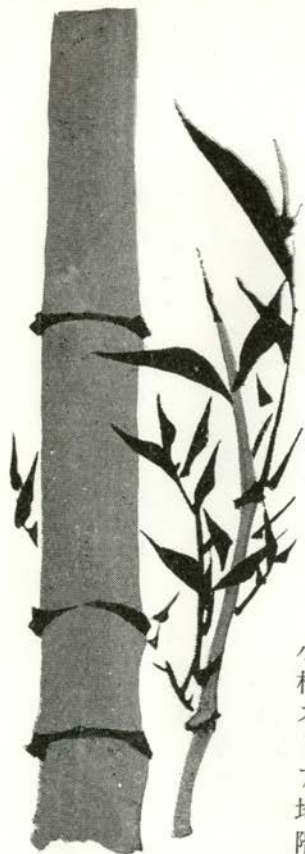
毎日五時間泳ぐということは、一日のあとの時間の睡眠八時間を除くと、恐らくは陸上をあるく時間と、水の中を泳ぐ時間とが、同じ位になるのではなからうか。そうするとシヨランダ―の日々

の生活は、半分を歩き半分を泳いでいるということになりそうだ。ここまでくると、陸上の呼吸と水中の呼吸とが、あまり変らないことになつてしまふ。だからわれわれが陸上を歩いているような調子で、彼は泳ぐことができるのである。シヨランダ―の水に乗つた軽快な泳ぎぶり、そしてラストで他の選手たちが息きれぎれに、こん身の馬力をふりしぼつているのに、彼は見る見るうちに、パツパツパツと他を抜いてしまふ。こんな放れ業は平素のたゆまざる訓練による以外に、到底できるものではないのである。

私だつて老いたりとはいへ、年中毎日せめて一時間位泳ぐことができたなら、相当の長寿を保つこともできるのではないかと思うのであるけれども十月に入ると翌年の初夏まで、水泳と縁切れになつてしまふ。

日本人はもともと水泳に向いている。ならばこそかつては、水泳王国の名をほしいままにしたのである。ああそれなのに、それなのにである。今もし日本に温泉プールが方々にできて、冬でも毎日泳げるようになったらどうなることであろうか。日本にシヨランダ―が続々と輩出すること間違いなしである。ぜいたくなプールをつくる必要はさらさらない。二十五米でもよろしい。とにかく年中、日本人が毎日泳げるようにしてほしいのである。あんな豪華オリンピック・プールができるのに、私のこの些々たる要望の実現ができない筈はないのである。こい願わくばこの私の悲願がかなえられ、水泳王国の夢よ、もう一度となりた

(神戸大学教授)



きもの
と細貨

東京 神戸

銀座店	新橋店	東店	西店
TEL. (572)	TEL. (571)	TEL. (33)	TEL. (33)
5151	0807	0883	0836
(代)		29	6(代)

小松ストア地階

おんがら屋

お慶びの日に……

二人の夢を結んだ幸せ
ない日。風月の堂の香りが
い洋菓子出を創ります。
想い出を創ります。



元町3丁目 TEL. (39)2412~5

ウェディングケー
キ・デコレーショ
ンケーキ・松竹梅
引菓子・紅白饅頭





ご贈答にどうぞ

直輸入羅紗専門店・紳士服・婦人服

シマキ洋服店

神戸店 生田神社東門筋 ㊟7950・8055 ㊟2597
 大阪店 北区梅ヶ枝町92ヤノシゲビル1階 (362) 9515

北欧の銘菓

弊社の登録商標



- ピラミッドケーキ
- バウムクウヘン
- クツキ
- ムンデット
- シモン

ユーハイム コンフェクト

本社・工場 神戸熊内町1(市立美術館東隣)
 熊内店 TEL. 22-2336・1164・1165
 三宮店 神戸三宮生田筋(階上喫茶室)
 TEL. 33-7343・0156・4314



写真は森垣常務

「神戸っ子放談」

生れ変わる神戸の都心

森垣 茂 (神戸地下街株式会社常務取締役)

国際港都神戸に、また新しい名物が生れようとしている。目下、着々と工事が進みつつある三宮地下街と神戸

交通センタービルがそれである。これによって、文字どおり神戸の都心ともいえるべき三宮周辺の様相は、大きく変容してゆくことであろう。本誌編集部では、神戸地下街株式会社常務取締役の森垣茂氏に、今月号の神戸っ子放談にご登場いただき生れ変わる都心という話題を中心

に、いろいろとお話をお聞きすることにした。

親子二代土木工事に生きる

「最初にざっと私の経歴からお話いたしました。私は子供の頃からの神戸っ子で、小学校は雲中小学校です。それから県立一中を出て、高等学校は熊本の第五高

等学校。昭和四年に京都帝国大学工学部の土木工学科を卒業しまして、その後直ちに大阪市土木局に入りました。昭和十九年まで勤めました。まあ、その間にいろいろのことがあったわけですが、結局、大阪市高速鉄道——今の地下鉄ですが——の工事の件がいちばん思い出に残っていますね。梅田駅と淀屋橋間の工事に、みずから現場監督として従事したことがあるんですよ。

昭和十九年七月に、神戸市の土木局にはいりまして、その後三十二年五月定年でやめるまで水道局に勤めたわけですが、実は面白いことに、私の父は東大の土木工学科を出まして、明治時代に神戸港建設に着手したりしたものです。大正十二年から昭和九年まで、都市計画局にいて、いわば技術の総元締めとして活躍しました。まあこんなふうに親子二代にわたって、神戸の土木関係の仕事にたずさわったというのは、他にちよつと例がないようですね。」

来年十月一日に営業開始の
近代的なショッピングセンター

「実は、今度の三宮地下街の構想は、突然出てきたというものではないんですよ。私が昭和二十二年頃、復興局の土木部長時代に、今の宮崎助役さんと、神戸の道路や公園などの公共用地の最高度の利用法について何度も話し合ったものです。だから、三宮に公共地下道路を作るといふ考えは、発想としては既にその当時からあったということですね。現在の地下街構想が本格的にかたまり出したのが五年ほど前ですね。それからプランニング（計画立案）の段階でだいたい二、三年かかりました。現在の会社が設立されたのが昭和三十八年二月、着工が三十八年の六月一日です。

この地下街のネライといえますと、ごく大雑把にいつて、三宮をほんとに神戸の表玄関にふさわしい町にしたということなんです。三宮周辺は年々交通量が増える一方ですから、この交通難を何とか緩和しなくては

ならないし、歩行者の安全を確保しようというわけで横断地下道をつくり、同時にそこをショッピングセンターとして、近代的な地下街にしたいということなんです。

最近の流通機構の変動や消費者の動向を見ておきますと、ショッピングセンターのあり方に関してはおなかなかむずかしい問題があるようですね。その点三宮地下街の計画は、そういう時代的な要求と三宮の立地条件に充分応えられるように配慮していますから、必ず出色のショッピングセンターになりうるという自信をもっているんですよ。エスカレーター、商品専用のリフト、冷房設備、照明、空気調整、店員の厚生施設などもちゃんと完備しておりますし、有力な専門店の集まったショッピングセンターにふさわしいものになるでしょうね。それぞれオーブンフロアーで構成して、例えばレディス・タウン、メンズ・タウン、ファミリー・タウン、ハイモード・タウン、サロン・タウン、等々というふうに消費者を対象にいろんなタウンによって、三宮地下街が構成されるわけなんです。デザインもむろん、各々のタウンにふさわしい感覚をもちこんでゆくりもりですから、近代的な理想的なショッピングセンターが完成することは、先ずまちがいなしといえるでしょうね。

また地下街の西北端に地下一階、地上九階の交通センタービルを作ります。これは、ビルの二階で国鉄三宮駅・阪急電鉄神戸駅と新しい連絡路で結ぶようにし、さらに連絡路は、エスカレーターでビルの一階、地下街、阪神電鉄三宮駅へつながるといふ設計です。だから、このビルは、いろんな交通機関を結ぶためのひとつの拠点みたいな働きをするわけですね。同時にここをツーリストのための案内所としても完璧のものにしたいと思ってるんです。地下街、神戸交通センタービルともに、昭和四十年の十月には完成する予定です。

先にも申しましたように、なにしろこの区域は神戸一の繁華街で、交通も一等激しい所ですから、工事に当っては交通止め、騒音などで市民の方々に迷惑をかけない



着々と完成に近づいて行く神戸地下街（10月16日写す）

ね。都心の再開発という根本的な目的が、徐々に実現しそうな感じですが、なにしろ今までは神戸の都心といっても、六大都市の中ではいちばん貧弱だったですからね。私どもの事業は、とにかくそういう意味で市の都市行政、道路行政につながる、非常に公共性の強い事業だと自負している次第です。完成予定の件ですか？ そうですね、来年の十月一日には、余裕をもって営業を開始できるという見通しです。

神戸は港とともに

「神戸という都市は、なんといっても港を中心に生きていく運命にあると思いますね。だから、国際交流の基点として、また瀬戸内海の基点として港を更に発展させていかななくてはならないでしょう。

もう一つは、これはいいことかどうか分らないのですが、神戸の経済界にはちょっと弱いところがあるんじゃないかという気がしますね。もう少し一致固結するということがあってもいいように思うのですよ。どうもちょっと神戸の財界の特色を説明するのに、私などは苦慮する場合がありますね。住むにはいい所なんだけれども、やはり経済的な発展がないと都市としては弱いわけですからね」

（文責編集部）

ように、という点に最も気を使いましたね。そのために『上床板工法』という特殊な工法を用いたわけなんです。ふつう地下工事をやる場合には、堀削から床、柱、天井という順序で工事を進めるものなんです。今度の場合は、逆に天井から仕上げていったんです。騒音、振動の防止、在来路面の早期復原というネライは、ある程度実現できたんじゃないかと思っていますね。もっとも完全に、というのは無理な注文なんで、杭打ちの音が高くて『夜、安眠できない』という苦情が出たというようなどきもありましたからね。今のところ、土木工事は九〇%、全体としては約七〇%まででき上がったという状況です。

この地下街工事がよい刺激になりまして、三宮周辺は現在ちょっとしたビルラッシュの様相を呈しております

経済ポケット

ジャーナル

万国博誘致に 立上った神戸財界

兵庫県経営者協会、神戸経済同友会、神戸商工会議所、神戸青年会議所は十月二日、オリエンタルホテルで在神経済の四団体首脳懇談会を開き、①山陽新幹線の建設を促進する②万国博の神戸誘致を促進する③大阪空港は大阪神戸国際空港と改称するよう努力するなどを決議した。

さらに万国博誘致については兵庫県、神戸市、神戸商工会議所などで結成した万国博神戸会場誘致委が正式に発足し、十月九日、相楽園会館で第一回会合を開いた。これで万国博誘致運動は具体的に動き始めたわけである。同日の会議では「一九七〇年万国博の第二会場を神戸に誘致する」ことを決議、会長に岡崎(真)商工会議所会頭が互選された。開港百年を迎える神戸港に万国博が誘致されればまことに記念すべき大事業となるわけで、会議に出席した金井県知事、原口神戸市長



らは口をそろえて「東京でも名乗りを上げており、政府も乗り気の近畿への誘致を促進するため、総力を結集する必要がある」と語っていた。

「神経連」に積極的な 経済各団体

阪本前知事の「神戸に財界なし」という発言は非常にショッキングなものだったが、神戸銀行頭取の岡崎忠氏が十月二日の四団体懇談会で「神戸の経済界を代表する組織として神戸経済団体連合会を結成すべきである」と提唱したことが話題となっていた。

岡崎提案の真意は「神戸に財界があるのかどうか」とよくいわれるが、あることはある。しかしまとまりがないことも事実だ」といって現実を反省して、神戸経済界を一本化し、総意を代表するようなまとまった組織をつくらうというもの。それが具体的には各業界のトップクラブとして構成する神経連提唱となっていて現われたわけ。この構想は四団体懇談会で今後検討することにな

ったが、砂野川崎重工社長榎並阪東調帯社長、石野石野証券社長らも原則的に賛成の意向を表明しており、「神戸経済界の代表選手」づくりも具体化の方向に進んで行こう。

ハイウェイバス第一号走る

名神高速道路を定期バスで結ぶ名神ハイウェイバスが十月から登場、いよいよハイウェイバス時代が訪れた。第一陣は国鉄で十月五日午前七時十分神戸駅を名古屋に向け出発、日急バスも十四日午前七時半から動き出した。神戸からの第一号車のお客は国鉄バスが約二十人、日急バスが約十人と意外に少なかったが、いずれも第一号切符にはなかなかの人氣があった。「第一号切符で乗り込むと中風にならない」とかいう人もあり、バスは八十キロのスピードで名神を突っ走った。バスの車内はいずれも明るく、まずは乗り心地も満点に近く、窓外に映え

る景色もまた格別である。

陸上部門に進出する海運界の景色もまた格別である。神戸の海運業者はこのところ新分野への進出をめざしている。十月三日には玉井商船、太平洋海運、朝日物産が共同出資したタクシー会社と神和交通(資本金二千四百万円、社長玉井操氏)が発足、さらに玉井商船、八千代汽船、佐藤国汽船など、在神十四社が共同出資したフェリーポート会社「神戸海洋開発」(資本金二千万円、社長玉井操氏)も発足している。これらはいずれも海運業界再建のため多角経営を行なうというものだが、タクシー会社経営で成果を上げている佐藤国汽船社長の会社は順調に利益を上げていく。経営は人を信頼することが非常に重要だ。信頼して重要な仕事もやらせてもらうということによって、タクシー会社の経営がうまくいったと思う」と言っている。

KOBE オフィスレディ



石田トモ子さん(20才)

川崎製鉄KK資金部資金課勤務
資金課の窓口で社内預金係をつとめる石田さんは、20才とは思えない落ち着きと優しさをもったお嬢さん。クラブ活動ではマンドリンで活躍中だという。

オリエンタルホテル・ア・ラ・カルト(その4)

豪華千人の大宴会場

オリエンタルホテル——国際会議場——

オリエンタルホテル一階ロビーの東側に設けられた勾配のゆるやかな階段を昇ると、踊り場の壁に大きく飾られた豪華な壁掛が目をとらえる。美術織物家の龍村平蔵氏と北野恒富画伯の苦心の協作で、小町と黒主とを糸綿で現わし

たものと説明されている。大きなものなので二階に上ってから全体をゆっくりみるとよい。素晴らしい壁掛である。

さて、この階段を昇りきると二階の広いパーラーに出るが、ここを中心にして大小六つの宴会場があつ

まっている。会場はそれぞれ、薔薇、竹、梅、蘭、菊と名づけられているが、国際会議場といわれる大宴会場は、面積四五五平方メートル(一三五坪)、客席数五〇〇、カクテルパーティならば一〇〇〇人の宴会ができるという広さで、五カ国語同時通訳のできる通訳室の窓が五つ並んでいる。正面にはせり上り式のステージがあつて、奥ゆき三・五メートル、巾八メートルほどの長方形のステージで床から六〇センチだけ高くなる。両脇の移動舞台と合せると、巾十

六メートルの立派な舞台が出来あがる。この舞台をひきたてているのが、高い天井から吊るされた金色まばゆい豪華なカーテンである。

金色に輝やくこの幕は中近東へよく輸出されるザメクロスという生地で、縦糸はレーヨン、横糸はニッケル箔を加工しており、幕としてはなかなか珍しい。

天井をみると、ここには調光自在照明のシャンデリアが十八基もついでおり、一つのシャンデリアには、一〇〇Wの電球が十三個とりつけられている。電球はクリスタルガラスに囲まれ、強い光を放っている。

このするどい光線は足もとの桜材の床を一層重厚なものにしていく。

神戸に、こうした立派な会場が出来たことは市民の誇りといわれている。今後私たちの社交場として、展示会、音楽会、講演会、その他諸々のパーティに活用されて神戸の文化昇揚に役立つにちがいない。

(カット・松園寛)



ウェディングの
手みやげに



アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店TEL 332203



高級紳士服

山名洋服店

神戸三宮生田筋 33 5797

るぼるたーじゅ・コウベ

④

神戸の大衆演劇

松原新一

撮影／緒方しげを



大石劇場の入口風景。ワンくんも番犬という名の従業員である。

入場料100円。午後1時の開演で、終演が10時、この間、2回公演で入れ替えなし。だしものは、現代ものと時代ものが一本ずつで、その間に歌と踊りのシヨ一がはさまれている。黒ずんだタタミ敷きの客席。座布団を借りると、その代金が20円。従来は10円だったのが、諸物価の値上りに伴ない、最近倍増した。ある劇場支配人氏は、「池田内閣の失政ですなあ」と慨嘆する。どこに綿がはいっているのか分らぬような、うすっぺらな座布団だが、ないよりましだし、それにこれを敷かないと、どうも気分が出ないという人が多い。便所の臭気がぶーんと鼻をつく。昼間のせいなのか、お客さんはチラリ、ホラリ。数えて、ざっと10数人の入り。おじいさん、おばあさんに、子供が少々。たぶん、孫を連れての暇つぶしなんだろう。幕の上らぬ舞台に向けて、パチパチと手を叩く人もいる。早く始めろ、という意志表示か。みかんをせっせと口に運ぶおばあさん。ここでは、かんづめの空かんが灰皿だ。客席の隅っこに空かんがごろごろ転がっている。壁の一点に「禁煙」のハリガミ。後方の土間には、木の丸椅子がうす高く積まれている。夜になると満員になるので、タタミ席にあげれぬお客さんのために、この丸椅子がインスタント座席に早変わりする。しのびこむ隙間風をうけて、幕がひらひらと揺れる。

開演前のひととき、弁当持参(夕食用)でかぶりつき

に陣どった、あるおじいさんに話してもらった、芝居ファンの弁は――。

「替りごとに観に来てます。そやから5日に一べん、いうことですわ。まあ、若い頃から芝居が好きやったしそれにここで晩までおれたら、ワシらには極楽ですよってなあ。どうせ家におっても、働きがないやらなんやら息子の嫁が、うるそう言いよりますよって、この方がなんぼ気楽でエエか分りまへん。初日にはちよこつと小づかいもろて、弁当こさえてもろて、早うからここへ来ることにしてますねん。

万才でっか？、そら好きや。けど、神戸やったら松竹座まで行かな聞かれませんか。あんな高級なとこ、ワシらには氣づまりでかないまへんわ。しんどなつたかというて、ここみたいにごろつと寝るわけにもいかへんし、弁当なんか持って行きよつたら、それこそ笑われますがな。」

このおじいさん、68才だそうだが、上着の襟に百円札を一枚、クリップでとめて、嬉しそうな顔をしていた。芝居ファンのダンディズムかもしれない。

灘区に住むあるおばあさんは、昼間は家の留守番、共稼ぎの息子夫婦が帰宅する夜になると、せつせと劇場に通う。ひいきの一座が来れば、毎晩でも通う。木戸番のおじいさんも、すっかり顔馴染みになった。番犬の「ユミ」も、おばあさんの顔を見ると、シッポを振ってじゃれついてくる。もつともこのワンくん、なにを思い違いましたのか、いつかおばあさんの足にかみついた。が、おばあさんは怒らない。ときどき菜屋に上りこんで、役者の衣裳のほころびをなおしてあげたりする。家にはテレビがあるが、「若いもんは、プロレスや歌やいうて」なかなかおばあさんの思うようにはチャンネルを回してくれない。それにおばあさんは、テレビで今はやりの「ガチョン」や「お呼びでない」が、あんまり好きでない。若い男の子が「くらげみたいにくねくねして」歌ったり踊ったりするのを見て、「なんじゃい、あれは」と思

ってしまった。だから、芝居小屋に来て、歌と踊りのシヨウの時間が、いちばん退屈だ。おばあさんは、「臉の母」と「関の弥太っべ」が大好き。いつ見ても、泣けて泣けてしょうがない。

劇場では、毎日狂言が変わる。観客がいつも同じ顔ぶれだから、同じ出しものを2日続けるわけにはいかない。どんな劇団でもレパートリーは広い。もつとも、登場人物の名前が変わるだけで、筋書きはほとんど同じ、という場合もある。念入りな稽古は、やりたくてもできない。

職人芸でなんとかこなしているが、セリフをまちがえたり、出番を忘れたりすることが多い。しかし、みんな真剣にやっている。その真剣さに、おばあさんは感心するクライマックスにかかると、ちからいっぱい手を叩く。

「おすみちゃん」と、ひいきの役者に、しわがれた声で声援をおくつたりもする。おばあさんが、「おすみちゃん」に惚れたのは、彼女が舞台で本ものの涙を流すからである。可哀そうに、可哀そうに、とシンから思う。

「映画俳優は、目薬さして泣いているけど、おすみちゃんは、ほんまに泣いている。そやから、おすみちゃんの方がずつと偉い」とおばあさんは考える。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

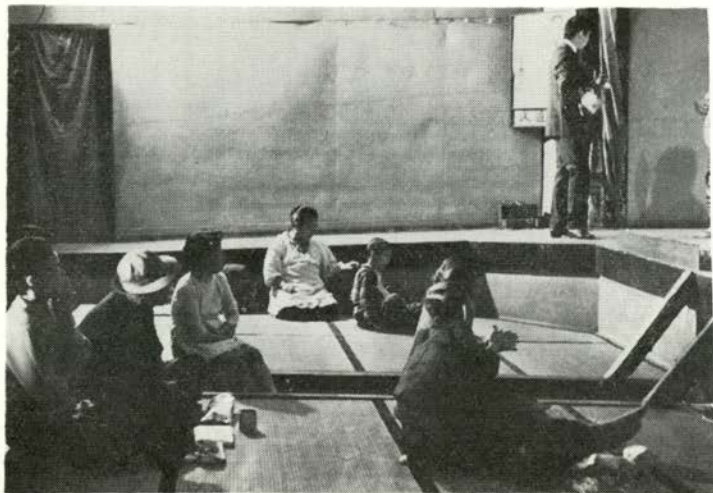
戦後の一時期、神戸は大衆演劇のメッカだった。淡川新開地を中心に大衆演劇の花が咲いた。だが、その面影はもうない。大石劇場、中村座、二葉劇場という、いわば場末の芝居小屋がわずかに存続しているだけだ。ここは、あのおじいさん、おばあさん達のレジャー消費の遊び場所というあんばい。

神戸の戦後における大衆演劇の推移について、放送作家の織田正吉氏は、あらまし次のように言っている。

「私も、年号などそう詳しく知っているわけではないのですが、ごくおおまかな流れを言いますと、戦後3、4年たって先ずストリップ・シヨウが生れ、それから女剣戟の興隆があり、同時に喜劇、軽演劇が流行したということですね。もつとも、寄席芸的なものはずつと続い



歌と踊りのショー。ステージでは「女侠一代」を力一杯歌っていた。



閑散とした客席。が、おばあさんは惜しみなく拍手を送っている。

であったわけですけど。まあ、当時は今と違って、湊川新開地が娯楽の中心だったわけで、新開地劇場、寿座、公園劇場などが演劇場として人気を拍していたといえるでしょうね。

神田千恵子、中野弘子などの女剣戟は、しばしば新開地劇場に出演していましたし、男性剣戟の方でも、中野伝次郎のような名の通った人がよく出ていたようですね。冗談音楽が発足した頃に、三木鶏郎、丹下キヨ子、河井坊茶、小野田勇などが新開地劇場に出演したことも特筆していいでしょうね。たしかその時に、勧進帳をやりましてね。巡査とカツギ屋の問答でやっただんです。巡査が富樫で、カツギ屋が弁慶というわけですが、とにかくその頃は痛烈な風刺の精神が生きていましたよ。

また、今だに忘れられないのは、無名時代の宮城まり子ですね。新開地劇場にたびたび出ていました。当時の人気スターだった宮城千賀子にあやかろうというわけで宮城千鶴子と名乗っていましたよ。明らかにまがいですけどね。彼女がドサ回りをやっていた時代です。歌謡物語『婦系図』が十八番で、これは出演するたびにやっていました。基礎のしっかりした、いい歌でした。当時はしょっちゅう停電した時代で、マイクもライトもないうす暗い舞台で、彼女は一生懸命でうたっていました。その時にうけた感動は、今も忘れられないんですが、もうああいう時代は二度とやってこないでしょうね。今は、娯楽といってもあり余るほどあるし、すぐ目移りがして、ほんとに楽しむという雰囲気はなくなりましたね。

無名時代の宮城まり子の場合、観客もニコヨンのおっさん、おばさん連中がほとんどで、舞台と客席の間に、奇妙な一体感のようなものが生きていたと思うんです。先年、神戸新聞会館で彼女がリサイタルをやった時に、客席から野次が飛びましたね。そして彼女、『うわあ、新開地のお客さんやわあ』って、なつかしそうにこたえているんですよ。あれは面白かったな。

寿座にしても、なかなか特色があつて、現代的なセンスをもったしゃれたコメディをやっていたものです。解散後のムーラン・ルージュの一派が神戸に流れてきて、寿座に出演していたことを憶えています。彼らは、たしか神戸駅前の紅葉館に、相当長く泊っていたはずですよ。

他にも、大江美智子がよく八千代座に出ていたし、ダイマル・ラケットも八千代座が本拠でした。高田浩吉劇団やエンタツ劇団の芝居も、新開地劇場で見たことがありこうやって回顧してみると、神戸の大衆演劇がいかに盛んだったか、ということがよく分りますね。それが駄目になった原因は、やはり第一に映画の進歩——天然色映画、ワイドスクリーンの出現——でしょう。芝居の実演をやっていた劇場が、次々に映画館に転向していったのも、当然の成行きですね。それに、今みたいにテレビが普及してしまつて、それでなんでも安直にまにあつてしましますからね。もうひとつは、やはり神戸の土地柄を考へる必要があると思ひますね。神戸という所は、外からどんな新しいものが入はいつてくる。大衆は喜んでそれをうけ入れるわけです。しかし、飽きがくると、さつさとそっぽを向いてしまふ。一つのが10年と続くというところが少ないですね。だから、それを演劇にいつていうと、土地から生れた演劇の伝統がないということですよ。」

◆ ◆ ◆

たしかに、芝居の実演は、神戸でははやらなくなつた例えばストリップ・ショウにしても、従来は軽いコメディを間にはさんでいたものだが、最近はそれがすっかり

影をひそめた。芝居を見に来たんじゃないぞ、というお客さんの切なる要望？ を無視できなくなつたのが実情だ。

だが、このようなうろいゆく流行の外で、一貫して変らぬものがある。冒頭で紹介した、場末の芝居小屋の世界である。それは、あのおばあさんが言うように、番場の忠太郎や関の弥太っぺが英雄でありうるような世界である。人々は、そこに生きている義理人情の美しさと悲しさに、我を忘れて酔っている。ハッピーエンドは駄目。例えば実の親子と知りながら、離れていく悲しみが人々の胸を打つ。たいてい子供が泣かせ役になる。国定忠治、沓掛時次郎、関の弥太っぺ、石童丸みなそうである。惚れた同志でも、結ばれてはいけない。義理をすませてしまえば、男はどこへともなく去つてゆく。そこに切ないほどの余情が漂う。(序でに言えば、映画「シェーン」も同じような設定だ)

こういう感傷的なアツピールの構造をもつ芝居を、ナニワブシ的だ一笑に付すのはたやすい。だが、そのような芝居の世界が、神戸の片隅で細々ながら三個所(前記の大石劇場、中村座、二葉劇場)も存続している事実は無視するわけにいくまい。

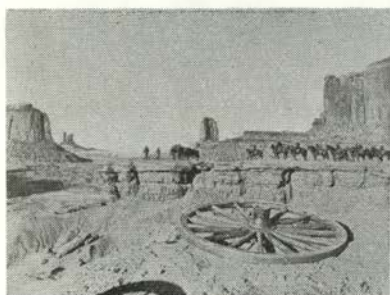
今度気がついたので、こういう場末の劇場の観客は地方から出て来て、神戸に移り住んだという人がほとんどなのである。神戸は、本質的に移住者の町だ。京都や大阪と、そこがもっとも違う。つまり、京都や大阪の人々には、その土地の血が流れているが、神戸にはそれがない。神戸には伝統がないというのは、ひとつはそういう意味だ。都会に馴染める人はいいが、どうしてもどこかで同化できないという都会の中のアウト・サイダーが神戸にたくさんいたとしても不思議はあるまい。そういう人々が、古めかしい義理人情の芝居の世界に、辛うじて心の慰みを見出そうとしているのではなからうか。それは、神戸の《現実》にはない世界であり、それゆえに田舎もののおじいさん、おばあさんの憧れを誘うのである。

さらされているのはさぞ哀感ただよったことだろう。

フォードはこんどの映画で自分がこれまでの西部劇でどれだけインディアンを殺してきたかを考え、こんどというこんどはインディアンを味方になって亡びゆくシャイアンをかんぜん「主役」にしたと言う。フォードはサイレント時代、ハリイ・ケリーというスタアを使って西部劇で売り出した監督であるが、そのハリイ・ケリーの西部劇はいつもその主人公がきまっけてその名が「シャイアン・ハリイ」だったのである。つまりワイオミングのシャイアンの男というわけである。

いまでこそウエスタアンという勇壮そのものの代名詞だが、サイレントの昔は西部劇ではなくてすべて西部人情劇。それでたいがい主役のカウ・ボーイが開拓町の学校の女先生と恋をする。牧童姿の彼が授業中の先生たる彼女を校庭の片すみで待っている。手もちぶさたに足もとに咲くマーガレットの一輪を手にとりあげる。そしてその花びらを一枚また一枚と「シイ・ラヴズ・ミー」「シイ・ラヴズ・ミー・ナット」とむしる。そしてたいがい「シイ・ラヴズ・ミー」が最後の一片となつて、彼はやおらカウ・ボーイ・ハットのつばを片手で得意げに上に押しあげるのである。

ところがその牧童はキャトル・トレイルで東部への長い旅に出る。それは往復一年を要する手運びだ。やがて給金を攜んで喜んで戻ってくると彼女にはすでに



愛人ができていて、その二人の幸せな姿を遠くから眺め、一人さびしく口笛吹いてはるかな西部へ去って行く。つまりこの昔のウエスタアンはロオンリイ・カウ・ボーイのお話なのであって常に牧童の孤独が歌われていたのである。フォードが「リバティ・バランスを射つた男」のジョン・ウエインに演じさせた役が昔のウエスタアンのヒーローだったのである。

さてそのフォードがここに七〇ミリ「シャイアン」で、それらウエスタンの総決算をするのではないかと楽しみである。と言うのはこんな映画にワイアット・アープやドックホリデイを出したりしているからである。

逃亡シャイアン族はオクラホマからカンサスをぬけコロラドからワイオミングの北へ進む。そのカンサスにワイアット・アープが登場するわけだ。ワイオミングの北イエローストンはもう九月末から雪が降り始め十二月、一月は車も通れぬ雪ぶかさである。おそらく映画も雪のシーンが出てくるにちがいない。

(映画評論家)

—写真は「シャイアン」の劇場面—

☆ ☆

☆ ☆



・キャプテン・ガアルーチヨ

シルバーグレーの艦腹に新しいペンキを塗る水兵。デッキには、自働小銃を肩につるした衛兵が緊張した顔で立哨している。きりたった艦橋。グレーのマストのそばには、レーダーがグルグルまわっている。ニョッキリと虚空をにらむ高角砲。真白い水兵帽が忙しく立ち働いているその反面、制服に身を固めた士官が、タラップから嬉しそうに降りてくる。上陸するのだ。とても楽しそうに、しかも威厳を失なわぬようにと歩を運ぶ。その体から嬉しさがこぼれているようだ。

第六回目はこれまでとグリーンとおもむきをかえて、軍艦を訪問してみた。それは、イタリア海軍第五艦隊の巡洋艦アンドレア・ドリア号 (Andrea Doria) である。

十月十三日朝、おりからの小雨をついてアンドレア・ドリア号は、輸送艦エトナ号とともに戦後ではじめての神戸訪問である。

私は、アンドレア・ドリア号が八月十五日日本国を出発、訪日の途についたニュースをみた時から、この艦の訪問

● Captain Interview No. 6

きく人 玉 奥 章



・ジョルジーニ少尉

こんにちわ

船長さん

アンドレア・ドリア号

イタリア海軍第五艦隊巡洋艦

キャプテン・ガアルーチヨ

を予定していたが、さてインタビューとなるとイタリア語をなんとかしなくてはならない。もとよりイタリア語を解さぬ私であれば、神戸っ子の編集子になんとかよい知恵はないものかと相談してみた。さすがは編集子である。レストラン・イタリアのママさんをたのんでみようという。ママさんならイタリア語はペラペラだから大丈夫だろうと一安心。ついで軍艦がインタビューに応じてくれるかどうか。領事館に聞いてみると、直接軍艦にあたってみてくれという。ままよ、でたとこ勝負、断わられりやそれまでと、レストラン・イタリアのママさんを先頭にアンドレア・ドリア号へとくりこんだ私たちである。

舷門をくぐると、先にも書いたが自動小銃を肩にしたいかめしい衛兵の前を通らなければならぬ。そのすぐ隣りに、濃紺の作業衣をつけガツリした体格の士官がたっていた。トージイ副艦長 (CDR Cesare Tosii) である。案内されて士官ルームにとおる。握手する手が痛い。壁には黒田武士の額がかかり日本調。なにを飲みますか? 皆はコーヒーがいいという。私は数日米、腸の具合が悪く食事制限中なので紅茶にした。艦長は公式訪問のため多忙で逢えそうにない。艦のことならこのパンフレットに詳しく書いてあるとあってすばらしい案内書をもたらした。しかしこれじゃ今日は船長さんにならない。まづこと二十分余。艦内のテレビには、東京オリンピックの実況中継が流されており、士官が三々五々観戦中だった。当番兵が折目正しく艦長が逢うと連絡してきた。いそいで甲板にでる。小柄な人だった。だがすばらしい体格で、鼻の大きなイタリア人らしい風貌の紳士である。ニコやかな笑顔、陽気な身ぶりで全く嬉しくなってしまう。

「日本ははじめてですが、とても美しい。東京オリンピックの開会式は、全くすばらしく感激しましたね。なかでも宣誓式は、とても印象深く想い出に残っています。世界のすみずみからスポーツを中心に集うあの八千余人

の若人たちノ平和そのものです。国立競技場もたいしたものです」

ベタボメである。人なつっこい笑顔。目がとてもチャームングな艦長さん、艦長さんの名前は、ギユウセイ・ガアルーチョ (CAPT. Giuseppe Galluccio) 当年四十九才「艦長さん、神戸の町はどうですか?」

「美しい町ノまだ歩いておりません。これから(時計をみて)市長さんに招待をされていますので出かけますが、すばらしい町ですね」

「幼い頃から海に志されましたか?」

「そのとおりですよ(キツパリと自信をもって)十八才の時、海軍の学校にはいり今日におよんでいます。オヤツ(腕時計をみて)もうでかけなくてはなりません。お相手できなくて残念です。艦内はこのジョルジーニ少尉に案内させますから、ゆっくりとしていってください。当番、メダルをもってきたか? みなさんにこの記念メダルをさしあげます」

プラスチックの小箱のフタをあけると、タツの落し子とナイキが図案化されそのそばに ALTUS TENDAM と記されている。裏面には、当艦の紋章と INCR. A. DORIA となっていた。アルティマス・テンダムとはイタリア空軍の格言で、崇高な心^をを意味するという。濃紺のリボンがそえられてこのメダルが身につけられるようになっていた。

「では、みなさん、またお逢いしましょう」

挙手の礼と握手が終るとサツサとタラップの方におりていった。

ジョルジーニ少尉の案内で艦内をくまなく見学。彼の愛機にもせてもらったり、キャプテンブリッジでの詳細な説明ぶりには青年士官の面目躍如といったところ。その誇らかなイタリア海軍の人々に幸あれと祈りながら「CIAO[†]」(親しい中でのサヨナラの意)の挨拶とともにタラップを降りた。

空はぬけるほど青い。(提供神戸銀行)

🎵 KOBE ヤマハ ニュース



●世界の巨匠たちの
折紙つきヤマハピアノ
ヤマハピアノを置いた
その日から、気品がお
家の中にひろがります。
アフターサービスのゆ
きとどいた日本楽器で
どうぞお求めください。
U3C アップライト
¥ 246,000



●日本楽器のワールド
・ジャズ・シリーズ
第3弾11月5日～
11月30日まで
日本楽器には輸入版ジ
ャズがいっぱいノ
輸入ジャズレコードな
ら県下一を誇る当レコ
ード売場をご利用くだ
さい。



神戸もとまち

日本楽器

元町2丁目 TEL 393151代

秋の装い....

★ハイファッションのあなたのめがね★



伝統の中にも近代的なセンスの光る.....

神戸眼鏡院

元町3・333112-3391443

330551 (貿易部)